

SEKONIC  
**テシプロ X-1**  
model L-518

取扱説明書



お買いあげをいただき、  
まことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みいただき、  
セコニック・デジプロX-1(L-518)の性能  
を十分にご活用ください。

## 目次

各部の名称	2
液晶表示部	4
モードの選定と操作一覧	6
付属品について	
1. 光 球	8
2. 白色平板	8
3. 光角度板	9
4. シンクロコード	9
5. ビューファインダー	10
測定の準備	
1. 電池を入れます	11
2. 電圧をチェックします	11
3. カプセルの開け方	12
4. 測定モードの切換え(1)	13
5. 測定モードの切換え(2)	14
6. ASA感度の切換え	15
7. タイムの切換え	16
8. ベルのセット	16
ストロボ光・シンクロコード接続測定	17
//    ・コードレス測定	20
//    ・積算測定	22
フラッシュバルブの測定	25
定常光の測定	28
ムービーカメラの場合の測定	31
コントラストの測定	32
タイマー	34
照度の測定	36
指示補正の方法	37
測定範囲	38
取扱い上の注意	40
仕 様	41
アフターサービスについて	43

# 各部の名称



白色平板



光角度板



シンクロコード (別売)



# 液晶表示部

MODE(モード切換)キーに連動して表示されます。

- FLASH.C コード接続測定
- FLASH コードレス測定
- FLASH( $\frac{1}{f}$ )積算測定
- 表示なし 定常光測定(T優先)  
(F)※ " (F優先)
- 表示なし タイマー

※T・F切換キーに連動して表示されます

☑(バルセット)キーに連動して、バルがセットされたときに表示されます。

F・EVキーに連動して、FまたはEVが表示されます。

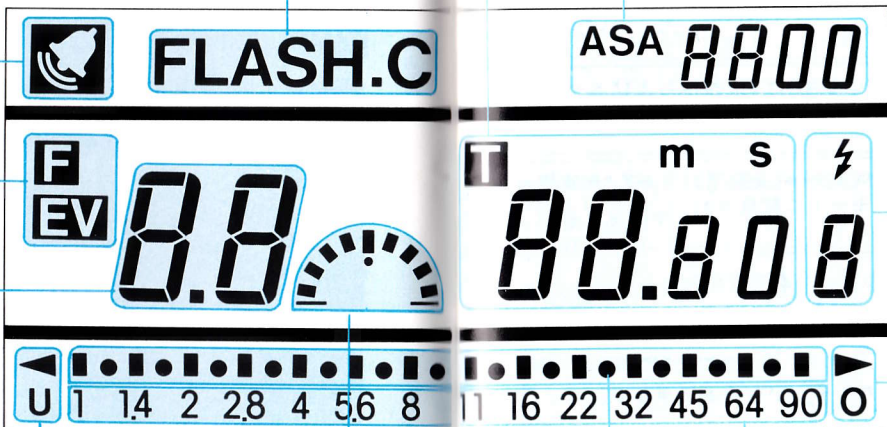
〔ただしストロボ光の場合は、Fのみで、EVは表示されません。〕

①測定F値、EV値の整数部が表示されます。

②電源ON・OFFキーがONのときにb.c文字表示されます。  
(ドット表示部と連動します)

①測定範囲外(アンダー)のときに表示されます。

②電池容量が不足すると点滅表示されます。



測定値の小数項表示。  
1目盛 $\frac{1}{10}$ EV単位で表示されます。

ASA(フィルム感度セット)キーと▲(アップ)キー、▼(ダウン)キーに連動して、フィルム感度が可変表示されます。  
(ASA6~8000)

①タイム優先のときに▲(アップ)キー、▼(ダウン)キーに連動して、設定タイムが表示されます。  
(30m~1/8000s)  
mは分、sは秒表示です。

②絞り優先のときに、F値に対応したタイムが表示されます。

③タイマーモードのとき、▲キー、▼キー、またはMIN(タイマー分単位セット)キーに連動して、設定タイムが表示されます。  
(1s~59m50s)  
mは分、sは秒表示です。

MODE(モード切換)キーに連動して、積算測定モードのときに表示されます。積算回数表示は0~9回、10回以上はE(エラー)表示となります。

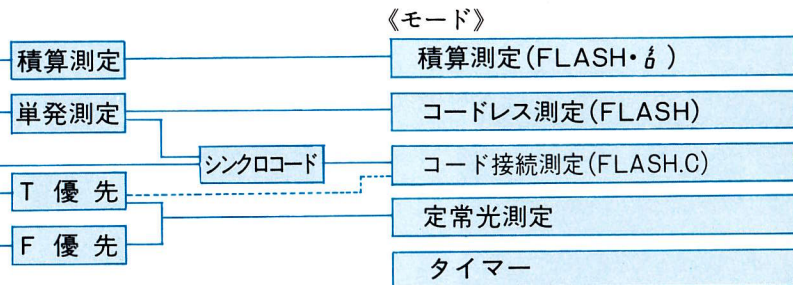
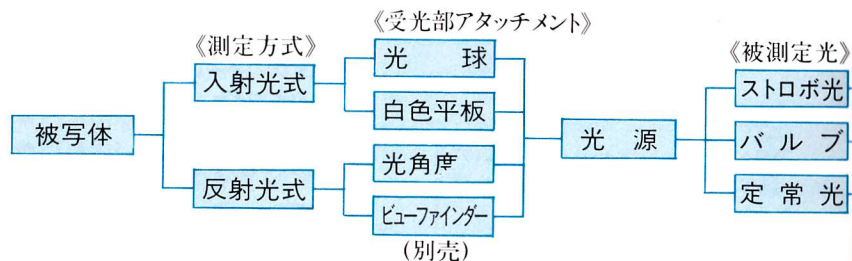
測定範囲外(オーバー)のときに表示されます。

絞り目盛(印刷表示)

①F値がデジタル部と連動して $\frac{1}{2}$ 絞り単位で表示されます。

②電源ON・OFFキーをONにしたときに電池の容量が表示されます。

# モードの選定と操作一覧



モード表示 キー操作	ストロボ光			定常光		タイマー
	FLASH.C コード接続測定	FLASH コードレス測定	FLASH( $\delta$ ) 積算測定	表示なし T(タイム)優先	F表示 F(絞り)優先	表示なし
電源ON・OFFキーをONにすると	0.5秒間(または押し続けている間)はb.c表示およびドットで電池容量を表示し、その後、自動的にモードが表示されます。					
MODEキーを押すと	FLASH.C⇒FLASHモードに変換されます。	FLASH⇒FLASH( $\delta$ )モードに変換されます。	FLASH( $\delta$ )⇒定常光(TまたはF優先)モードに変換されます。	定常光(TまたはF優先)⇒タイマーモードに変換されます。		タイマー⇒FLASH.Cモードに変換されます。
ASA・MINキーを押しながら、▲キーまたは▼キーを押すと	ASA 6～8000までのフィルム感度がセットできます。					1秒～59分までの時間がセットできます。
▲キー、または▼キーを押すと	1秒～1/500秒までのタイムがセットできます。			30分～1/8000秒までのタイムがセットできます。	F1.0～90までの絞りがセットできます。	1秒～59分50秒までの時間がセットできます。
F・EV・STキーを押すと	F(F値)↔表示なし(AV値)の切換えができます。			F(F値)↔EV(EV値)の切換えができます。		タイマーをスタートすることができます。(途中でストップも可)
T・Fキーを押すと				T⇒F(5.6)優先に変換されます。	F⇒T(125)優先に変換されます。	
☑(ベル)キーを押すと	☑(ベルのセット)表示↔表示なし(ベルのセット解除)の切換えができます。					

# 付属品について

## 1. 光球

入射光式でポートレートや立体的な被写体の露出を測定するときに使用します。

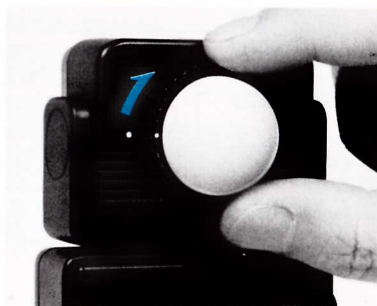
### 〔取付け方法〕

光球と受光部の白点（着脱指標）を合わせます。つぎに光球を矢印方向に静かに回転させるとクリックで確実にセットされます。

●取りはずすときは、矢印とは逆の方向に回転させます。

### 〔測定方法〕

被写体の測定したい位置から、光球を正しくカメラの方向に向けて測定します。



## 2. 白色平板

入射光式で照明コントラスト、照度などを測定するときや平面的な被写体の露出を測定するときに使用します。

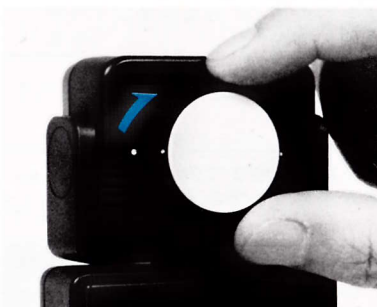
### 〔取付け方法〕

取付け、取りはずしは光球の場合と同じです。

### 〔測定方法〕

被写体の測定したい位置から白色平板を光源に正しく向けて測定します。

ただし、平面的な被写体の露出を測定するときは、被写体の測定したい位置から白色平板をカメラの方向に向けて測定します。



## 3. 光角度板

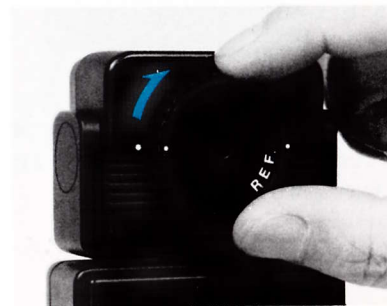
反射光式で被写体の反射光（輝度）を測定するときに使用します。輝度域調整用として輝度の相対比（被写体のコントラスト）を知る時に必要なほか、入射光式では測定困難な場合にも使用します。

### 〔取付け方法〕

取付け、取りはずしは光球の場合と同じです。

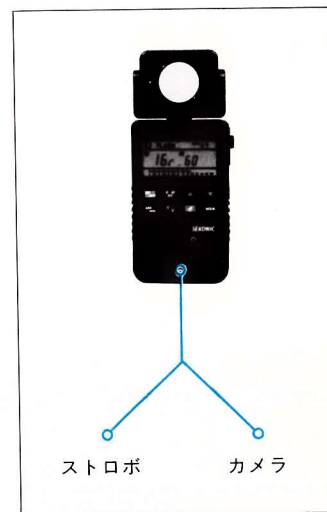
### 〔測定方法〕

被写体に光角度板を正しく向けて測定します。なお被写体の部分測定をしたいときは、できるだけ近づいて測定してください。



## 4. シンクロコード

露出計とストロボを接続してフラッシュ光を測定するときに使用します。この長さ5mのコードは、3つのプラグを持ち、露出計とストロボおよびカメラを同調させることができるので、撮影をするときにもコードを差し換える必要がなく大変便利です。また露出計側の接続端子は、ロック機構がついているので確実に接続することができます。なおコードをはずすときは、ロックを解除するリングの部分を持ち、手前に引いてください。



## 5. ビューファインダー (受光角10°)別売

光角度板と同じ、反射光式で測定するときに  
使用します。なお受光角が10°と狭いので、離  
れている被写体に近づくことなく測定できま  
す。また測定部分を目で確認できます。



# 測定の準備

## 1. 電池を入れます。

電池は、単三乾電池 (1.5V) 1本を使用しま  
す。なお、アルカリマンガン乾電池 (LR6) で  
連続使用4時間以上、マンガン乾電池 (SU  
M-3) で連続使用2時間以上の測定が可  
能です。

### 【電池の入れかた】

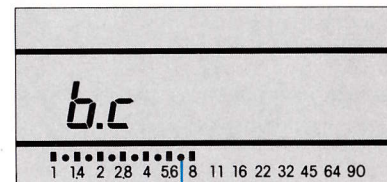
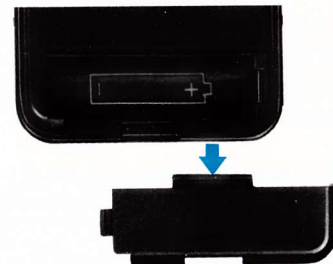
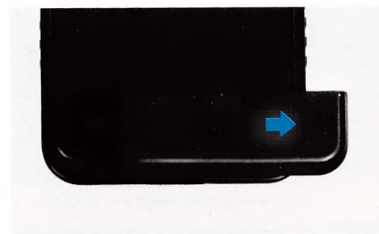
- ①電池ふたの凹部に指をかけ、押しなが  
ら矢印の方向に引いてはずします。
- ②電池の⊕⊖の極性を確認し、電池ケー  
ス内の表示に合わせて正しく挿入しま  
す。
- ③電池ふたの上凸部を本体に合わせ、ス  
ライドさせて取りつけます。

### 【注意】

- 電池を入れるときは、電池の⊕⊖の極性  
をまちがえないでください。
- 電池の両極および露出計の接片のよご  
れをのぞいて入れてください。
- 1週間以上使用しないときは、電池の漏液  
などによる内部回路の不良を防ぐため、電  
池を取り出し、ケースのサイドポケットに保  
管してください。

## 2. 電池をチェックします。

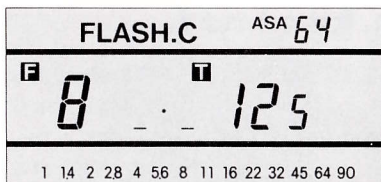
電池の電圧が不足すると、正しい測定値を  
示しません。使用する前には必ず電圧をチェ  
ックしてください。電圧が下がるにしたがって  
ドットが減っていきます。



ドット

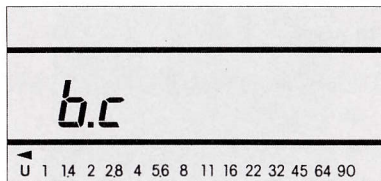
### 【チェックの方法】

- ①電源ON・OFFキーをONにします。
- ②キーを押している間はb.cおよび全負荷の電池電圧（ドット）が表示され、離すと測定モードが表示されます。



### 【注意】

- 電池の電圧が不足していると、キーを押している間はb.cおよびアンダーマークがフラッシング（または表示なし）して不足を知らせます。このときは、新しい電池に交換してください。
- 電池電圧が低下しかかっている電池では、一時的にb.c（ドット）表示されますが、異常な表示をすることがあります。このときは電池を取り出して10秒以上経過後、入れなおしてください。なお、それでも異常な表示をしたときは、新しい電池と取り替えてください。



### 3. カプセルの開け方

各操作キーは、上下各4個づつ2段に配置されていますが、下側のキーはカプセルを開けて操作します。

開けるときは、写真のように片手で本体上部を持ち、もう一方の手でカプセルの部分を持って引き下げます。

- 下側のキーを操作しないときは、カプセルを閉じておく誤操作を防ぎます。

### 4. 測定モードの切換え(1)

電池を入れ、つぎに電源ON・OFFキーをONにする。b.c表示後、FLASH.C(シンクロコード接続測定モード)の表示がされます。



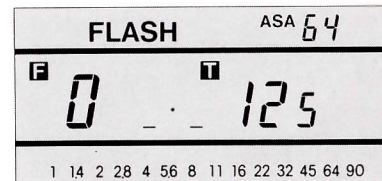
つづいてMODE(モード切換)キーを押すと、右図のようにエンドレスで変換します。

### 【注意】

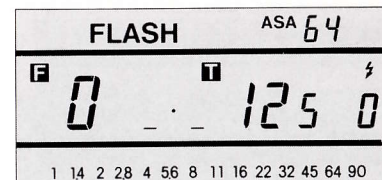
- タイマーモードのとき、測光ボタンスイッチを押すと定常光測定モードに変わります。



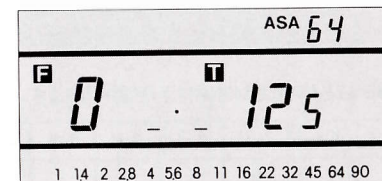
シンクロコード接続測定モード



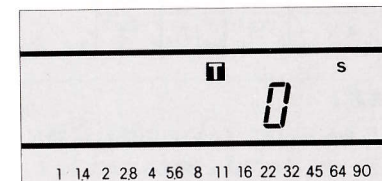
コードレス測定モード



積算測定モード



定常光測定モード

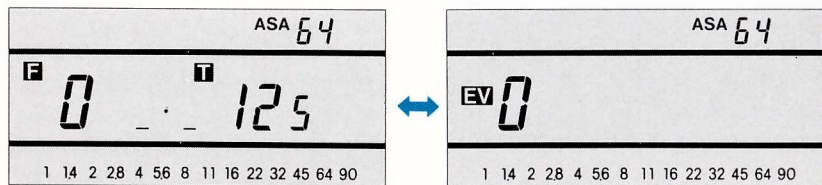


タイマーモード

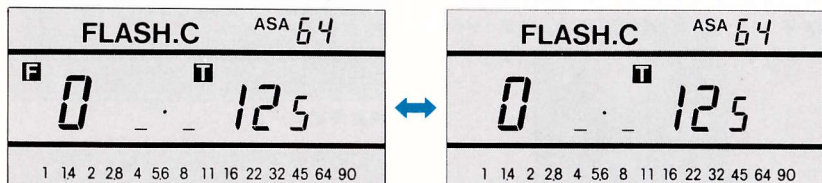


## 5. 測定モードの切換え(2)

定常光測定モードでF・EV切換キーを押すとF(絞り) ↔ EV表示に変わります。



フラッシュ光測定モードでF・EV切換キーを押すとF(絞り) ↔ 表示なし (AV = Aperture Value) に変わります。



● F値とAV値との関係は下記表になります。

F No.	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0	5.6	8.0	11	16	22	32
AV	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
F No.	45	64	90	小数項 $\frac{1}{10}$ AV表示							
AV	11	12	13								

### [注意]

● F ↔ EV(またはAV)の切換えは、測定前・測定後に関係なく変えることができます。

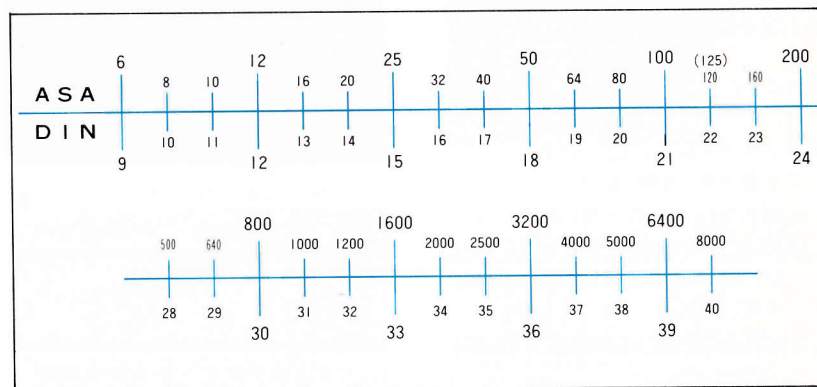
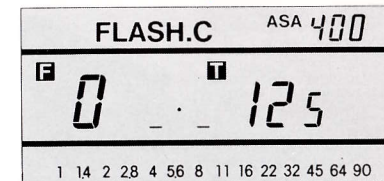
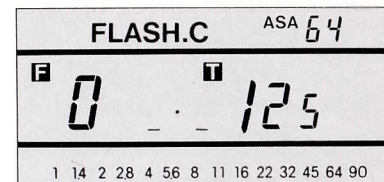
● 定常光測定モードでF(絞り)優先の場合は、EV値測定はできません。

## 6. ASA感度の切換え

ASA(フィルム感度セット)キーを押したまま、▲(アップ)キーまたは▼(ダウン)キーを押して、使用するフィルムのASA感度をセットします。



- 右の下図は上図より▲キーを8回押してASA64 → 400に変換しました。
- ▲キーおよび▼キーは、1秒以上押すと約1/8秒間隔で連続して変換されます。
- フィルム感度は、ASA6～8000までセットできます。
- ASAとDINの比較は、下記のとおりです。



## 7. タイムの切換え

▲(アップ)キーまたは▼(ダウン)キーを押して、測定したいタイム(シャッター速度)に合わせます。



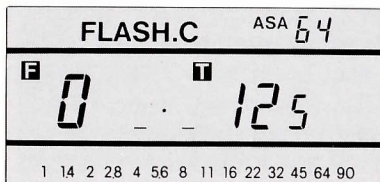
●右上の図のときに、▲キーを1度押すと下の図ようになります。(1押しで1EV変換)

●タイム変換できる数値は、

フラッシュ光測定：1秒～1/500秒

定常光測定：30分～1/8000秒

●▲キーおよび▼キーは、1秒以上押すと約1/3秒間隔で、連続して変換されます。



## 8. ベルのセット

☑(ベルセット)キーを押すと☑マークが表示され、音がセットされます。なお解除するときは、再度☑キーを押します。

●音は、すべての測定モードにセットできます。

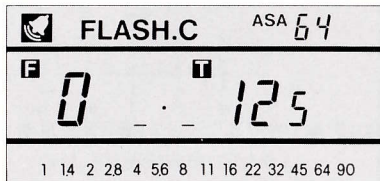
●音をセットすると次のようになります。

①各操作キーを押したとき。

②測光スイッチボタンを押したとき。

③FLASH(コードレス測定モード)およびFLASH(積算測定モード)で受光したとき。

④定常光における明るさの変化が1EV以上あったとき。



被写体位置からストロボを発光させて測定したいときやコードレスではストロボを発光させても露出計が感じないときは、露出計とストロボを付属のシンクロコードで接続して測定します。



### 【測定の方法】

①電源ON・OFFキーを押します。

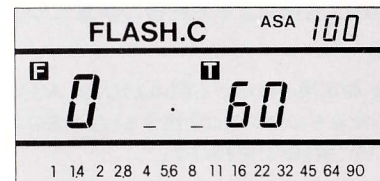
②MODE(モード切換)キーを押して、FLASH.C(シンクロコード接続測定モード)にします。

③ASA(フィルム感度セット)キーを押したまま、▲(アップ)または▼(ダウン)キーを押して、使用フィルムのASA感度に合わせます。

④▲または▼キーを押してシャッター速度を設定します。(1秒～1/500秒)

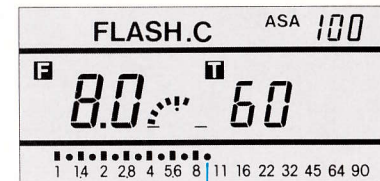
⑤シンクロコードを露出計のシンクロターミナルに取り付け、ストロボと接続します。

⑥測光ボタンスイッチを押すとストロボが発光し、絞り値が表示されます。再度、測定するときは、測光ボタンスイッチを押してください。



●F(絞り)値連動範囲は、F1.0～90(90.9)までです。

●測定値は、F値表示とともにドット表示します。なおドット表示は、 $\frac{3}{10} \rightarrow \frac{1}{2} \leftarrow \frac{7}{10}$ 、 $\frac{9}{10} \rightarrow 0 \leftarrow \frac{1}{10}$  のように表示します。

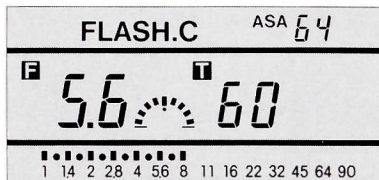
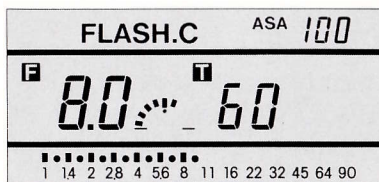
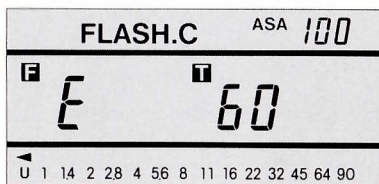


ドット

- 測定範囲を外れた場合は、F値表示がE(エラー)となり、T(アンダー)またはU(オーバー)が表示されます。
- FLASH.Cモードでも定常光の測定ができます。ただし測定の際は、シンクロコードをはずします。

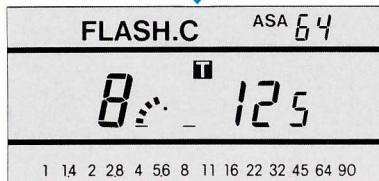
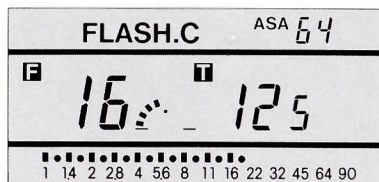
### [ASA変換による測定後の演算について]

- 測定後の表示が右図のようなとき、ASA数値を100から64に変換すると右下図のように絞り値が変わります。



### [F ↔ AVの切換えについて]

- F・EV切換キーを押すと、測定の前後に関係なく、F値表示とAV値(表示なし)が変わります。



### [注意]

- 測定後のタイムの演算はできません。
- 電源ON・OFFキーは、OFFの状態でも最終のASA、タイム、測定モードがロックされています。
- タイムを設定するときは、使用するカメラの同調範囲内であることを確認してください。
- ストロボによっては、シンクロコードを使用して測定する場合、発光しないものがあります。この場合は、「コードレス測定」で測定してください。
- 大型ストロボ(閃光持続時間の長いストロボ)を使用して、フォーカルプレキシヤッター付カメラで同調させる場合は、光量不足になる場合があります。カメラのX接点の実同調時間を確認のうえ、ご使用ください。
- シンクロターミナルにシンクロコードを取りつけたとき、ストロボが発光する場合がありますが故障ではありません。

# ストロボ光・コードレス測定

被写体が遠くてシンクロコードが届かないとき、またシンクロコードがじゃまなときは、コードを接続しないでストロボ光を測定することができます。(特殊な照明下での測定の際は24頁の注意をご参照ください)

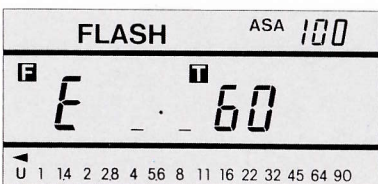
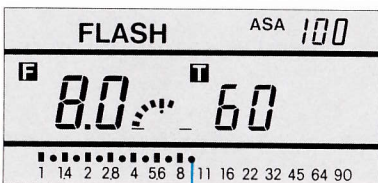
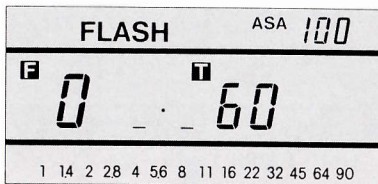


## 〔測定の方法〕

- ①電源ON・OFFキーを押します。
- ②MODE(モード切換)キーを押して、FLASH(コードレス測定モード)にします。
- ③ASA(フィルム感度セット)キーを押したまま、▲(アップ)または▼(ダウン)キーを押して、使用フィルムのASA感度に合わせます。
- ④▲または▼キーを押してシャッター速度を設定します。(1秒～1/500秒)
- ⑤ストロボを発光させると自動的に測定し、表示されます。

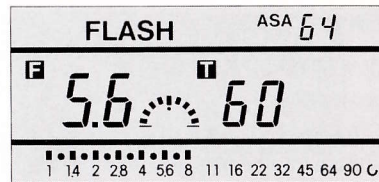
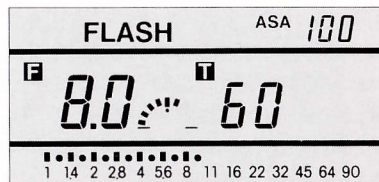
再度、測定するときは、測光ボタンスイッチを押してF値表示を0にもどしてください。

- F(絞り)値連動範囲は、F1.0～90 $\frac{1}{8}$  (90.9)までです。
- 測定値は、F値表示とともにドット表示します。なおドット表示は、 $\frac{3}{10}$ → $\frac{1}{2}$ ← $\frac{7}{10}$ 、 $\frac{8}{10}$ →0← $\frac{9}{10}$ のように表示します。
- 測定範囲を外れた場合は、F値表示がE(エラー)となり、 $\frac{1}{1}$ (アンダー)または $\frac{1}{1}$ (オーバー)が表示されます。
- 三脚用ネジ穴に露出計を固定して測定することもできます。



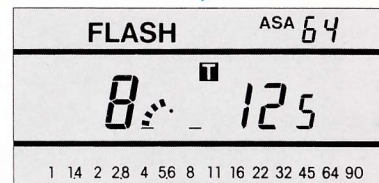
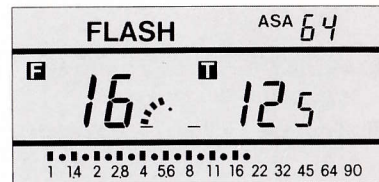
## 〔ASA変換による測定後の演算について〕

- 測定後の表示が右図のようなとき、ASA数値を100から64に変換すると右下図のように絞り値が変わります。



## 〔F↔AVの切換えについて〕

- F・EV切換キーを押すと、測定の前に関係なく、F値表示とAV値(表示なし)が変わります。



## 〔注意〕

- 測定後のタイムの演算はできません。
- 電源ON・OFFキーは、OFFの状態でも最終のASA、タイム、測定モードがロックされています。
- タイムを設定するときは、使用するカメラの同調範囲内であることを確認してください。
- 日中シンクロなど、コードレス測定モードでは周囲の明るさによって測光できない場合があります。このようなときは、コード接続測定モードにしてシンクロコードを接続して測定してください。

- 大型ストロボ(閃光持続時間の長いストロボ)を使用して、フォーカスプリレンジャー付カメラで同調させる場合は、光量不足になる場合があります。カメラのX接点の共同調時間を確認のうえ、ご使用ください。

# ストロボ光・積算測定

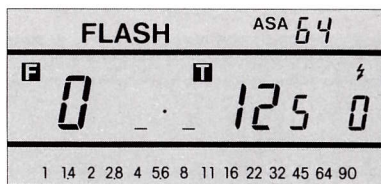
1回のストロボ発光では光量が不足のとき、また多重露出による特殊な表現をしたいときなど、ストロボを数回発光して撮影することがあります。このようなときは、積算測定モードに切換えて測定します。なおシンクロコードは使用できません。



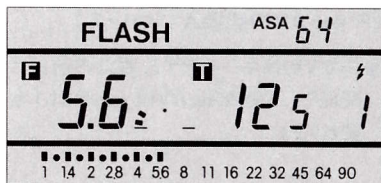
## 【測定の方法】

- ①電源ON・OFFキーを押します。
- ②MODE(モード切換)キーを押して、FLASH・ $\frac{1}{8}$ (積算測定モード)にします。
- ③ASA(フィルム感度セット)キーを押したまま、▲(アップ)または▼(ダウン)キーを押して、使用フィルムのASA感度に合わせます。
- ④▲または▼キーを押してシャッター速度を設定します。(1秒～1/500秒)
- ⑤ストロボを発光させるたびに自動的に積算測定し、測定値と積算回数を表示します。再度測定するときは、測光ボタンスイッチを押してF値表示および積算回数表示を0にもどしてください。

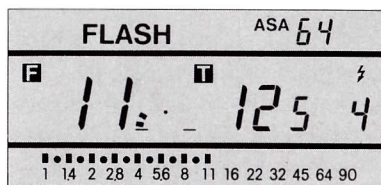
- 積算回数は9回まで可能です。また10回以上の発光は積算回数表示がE(エラー)表示となり測定はできません。
- F(絞り)値連動範囲は、F1.0～90  $\frac{1}{8}$  (90.9)までです。
- 測定値は、F値表示とともにドット表示します。なおドット表示は、 $\frac{3}{10}$ → $\frac{1}{2}$ ← $\frac{7}{10}$ 、 $\frac{8}{10}$ →0← $\frac{2}{10}$ のように表示します。



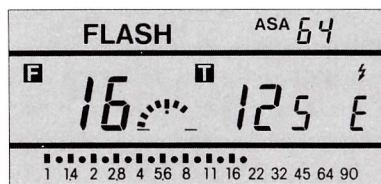
積算測定モード



最初の発光による表示

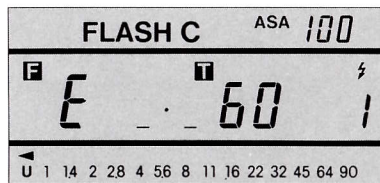


4回の発光による表示



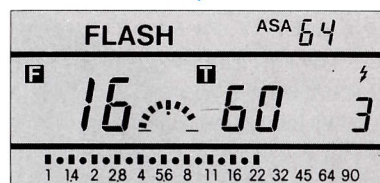
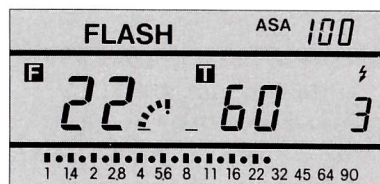
10回以上の発光による表示

- 測定範囲を外れた場合は、F値表示がE(エラー)となり、 $\frac{1}{8}$ (アンダー)または $\frac{1}{8}$ (オーバー)が表示されます。
- 三脚用ネジ穴に露出計を固定して測定することもできます。



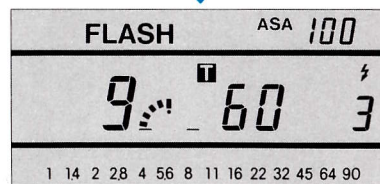
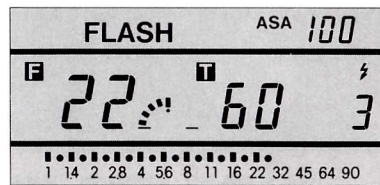
## 【ASA変換による測定後の演算について】

- 測定後の表示が右図のようなとき、ASA数値を100から64に変換すると右下図のように絞り値が変わります。



## 【F↔AVの切換えについて】

- F・EV切換キーを押すと、測定の前後に関係なく、F値表示とAV値(表示なし)が変わります。



## 【注意】

- 測定後のタイムの演算はできません。
- それまでの積算値の $\frac{1}{10}$ EV以下の光が加算されたとき、回数は表示されても測定値は変わりません。
- 電源ON・OFFキーは、OFFの状態でも最終のASA、タイム、測定モードがロックされています。
- タイムを設定するときは、使用するカメラの同調範囲内であることを確認してください。
- 他の人がストロボを発光させたり、誤ってストロボを発光させると積算値に加算されます。
- 大型ストロボ（閃光持続時間の長いストロボ）を使用して、フォーカルプレキシッター付カメラで同調させる場合は、光量不足になる場合があります。カメラのX接点の実同調時間を確認のうえ、ご使用ください。
- ラピッド型蛍光灯や特殊な照明下では誤動作する場合があります。

その場合は、

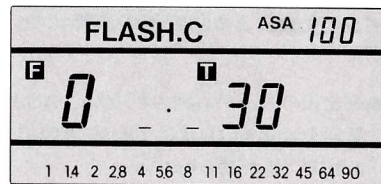
- ①FLASH. Cモードに切換えシンクロコードを使用して測定してください。
- ②シンクロコードを使用できない場合およびFLASH・ $\frac{0}{0}$ （積算モード）モードで測定する場合は、照明を消して影響を除いて測定してください。

# フラッシュバルブの測定

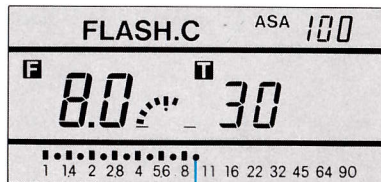
M級およびFP級のフラッシュバルブを測定する場合は、ストロボ光のシンクロコード接続測定と同じ方法で測定することができます。

## 【測定の方法】

- ①電源ON・OFFキーを押します。
- ②MODE（モード切換）キーを押して、FLASH.C（シンクロコード接続測定モード）にします。
- ③ASA（フィルム感度セット）キーを押したまま、▲（アップ）または▼（ダウン）キーを押して、使用フィルムのASA感度に合わせます。
- ④▲または▼キーを押してシャッター速度を設定します。（1秒～1/500秒）できるだけ $\frac{1}{10}$ 秒以下に設定してください。
- ⑤シンクロコードを露出計のシンクロターミナルに取り付け、フラッシュガンと接続します。
- ⑥測光ボタンスイッチを押すとフラッシュバルブが発光し、絞り値が表示されます。再度、測定したいときは、測光ボタンスイッチを押してください。



- F（絞り）値連動範囲は、F1.0～90（90.9）までです。
- 測定値は、F値表示とともにドット表示します。なおドット表示は、 $\frac{3}{10}$ → $\frac{1}{2}$ ← $\frac{7}{10}$ 、 $\frac{8}{10}$ →0← $\frac{2}{10}$ のように表示します。

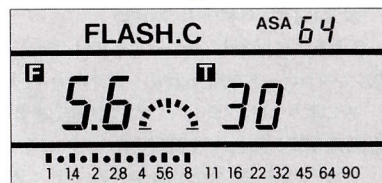
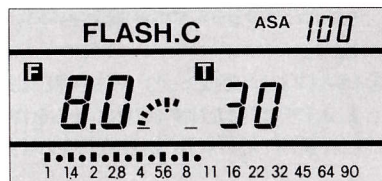
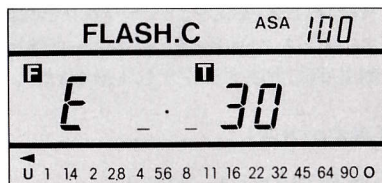


ドット

- 測定範囲を外れた場合は、F値表示がE (エラー)となり、 $\bar{\square}$  (アンダー)または $\bar{\square}$  (オーバー)が表示されます。
- FLASH.Cモードでも定常光の測定ができます。ただし測定のときは、シンクロコードをはずします。

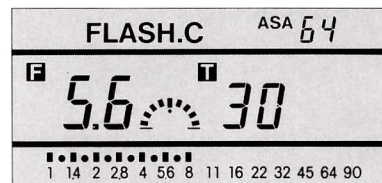
#### [ASA変換による測定後の演算について]

- 測定後の表示が右図のようとき、ASA 数値を100から64に変換すると右下図のように絞り値が変わります。



#### [F ↔ AVの切換えについて]

- F・EV切換キーを押すと、測定の前後に関係なく、F値表示とAV (表示なし) が変わります。



#### [注意]

- コードレス測定および積算測定モードでは測定できません。
- 測定後のタイムの演算はできません。
- 電源ON・OFFキーがOFFの状態でも、最終のASA、タイム、測定モードがロックされています。
- タイムを設定するときは、使用するカメラの同調範囲内であることを確認してください。また同調時間は $\frac{1}{90}$ 秒以下にしてください。
- フラッシュバルブを使用して撮影するときは、カメラのシンクロ接点は、X接点にしてください。
- シンクロターミナルにシンクロコードを取りつけたとき、フラッシュバルブが発光する場合がありますのでシンクロコードを取りつけた後、フラッシュバルブをフラッシュガンに取りつけてください。

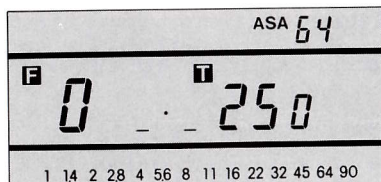
# 定常光の測定

自然光や電灯光などの定常光を、T(タイム)優先、またはF(絞り)優先で手軽に測定することができます。

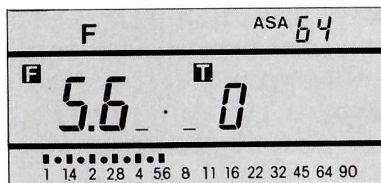
## 〔測定の方法〕

- ①電源ON・OFFキーを押します。
- ②MODE(モード切換)キーを押して、定常光測定モード(Fまたは表示なし)にします。
- ③測定モードは、T・F切換キーを押して、T優先(表示なし)とF優先(F表示)のどちらかを選びます。
- ④ASA(フィルム感度セット)キーを押したまま、▲(アップ)または▼(ダウン)キーを押して、使用フィルムのASA感度に合わせます。
- ⑤▲または▼キーを押して、T優先の場合はシャッター速度を、F優先の場合は絞り値を設定します。
- ⑥測光ボタンスイッチを押すとそのときの明るさを測定します。  
なお、T優先の場合はF値、F優先の場合はタイムが表示されます。

- T優先で連動表示されるF値は、F1.0～90 1/90 (90.9)までです。
- F優先で連動表示されるT値は、30分～1/8000秒までです。
- 定常光測定モードでは、測光ボタンスイッチをONのまま、変動する明るさを連続測光します。
- T優先の場合の測定値は、F値表示とともにドット表示します。  
なおドット表示は、 $\frac{3}{10} \rightarrow \frac{1}{2} \leftarrow \frac{7}{10}$ 、 $\frac{9}{10} \rightarrow 0 \leftarrow \frac{1}{10}$ のように表示します。



T(タイム)優先の場合



F(絞り)優先の場合



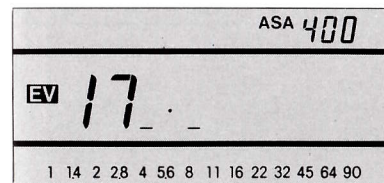
- F優先の場合の設定F値は、ドットでも表示し、測定値による変化については、ドットは変化しません。
- 測定範囲を外れた場合は、F値表示またはT値表示がE(エラー)となり、↑(アンダー)または↓(オーバー)が表示されません。

## 〔T優先の場合の測定後の演算について〕

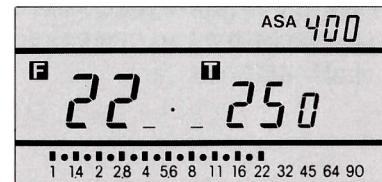
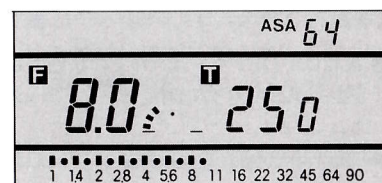
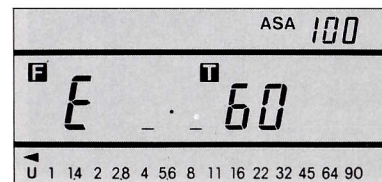
- 測定後、フィルム感度を変換することにより演算することができます。
- 同じく、タイムを変換することにより演算することができます。

## 〔F ↔ EVの切換えについて〕

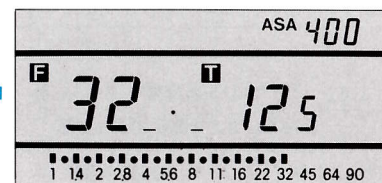
- F・EV切換キーを押すと、測定の前後に関係なく、F値表示とEV値表示が変わります。



EV値表示に変換した場合



ASA64→ASA400に変換した場合



シャッター速度を1/250秒→1/125秒に変換した場合

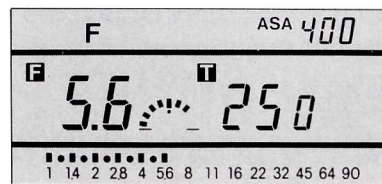
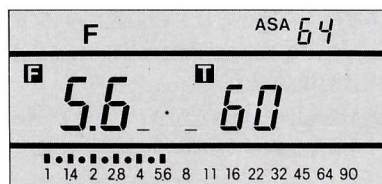


### [F優先の場合の測定後の演算について]

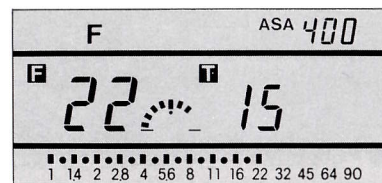
- 測定後、フィルム感度を交換することにより演算することができます。
- 同じく、設定F値を交換することにより演算することができます。

### [注意]

- 電源ON・OFFキーは、OFFの状態でも最終のASA、タイム、測定モードがロックされています。
- F優先の場合は、F ↔ EV の切換えはできません。
- F優先の場合は、小数項の表示変化にご注意ください。小数項を表示した場合は、設定F値に小数項を加えたF値をカメラにセットしてください。



ASA64→ASA400に変換した場合



絞り値をF5.6→F22に変換した場合

# ムービーカメラの場合の露出測定

測定方法は、定常光の測定と同じですが、ムービーカメラの場合は8、16、32…とコマ数単位になっていますので、コマ数に対応したシャッター速度をセットして測定してください。



### [測定の方法]

- ①電源ON・OFFキーを押します。
- ②MODE(モード切換)キーを押して、定常光測定モードにします。
- ③T・F切換キーを押して、T(タイム)優先にします。
- ④ASA(フィルム感度セット)キーを押したまま、▲(アップ)または▼(ダウン)キーを押して、使用フィルムのASA感度に合わせます。
- ⑤▲または▼キーを押してコマ数に対応したシャッター速度を設定します。
- ⑥測光ボタンスイッチを押します。

- 12コマ、18コマ、24コマの場合は、適合するシャッター速度がありません。下記の換算表の補正指示に従い、ASAのセットを変えて補正してください。

- ・ -1/3補正：使用するASA感度より1つ小さい値にセットします。(ASA40→ASA32)
- ・ +1/3補正：使用するASA感度より1つ大きい値をセットします。(ASA40→ASA50)

### ムービーコマ換算表

ムービーコマ数	8	12	16	18	24	32	64	128
シャッター速度	1/15	1/30			1/60		1/125	1/250
補正量	0	+1/3	0	-1/3	+1/3	0	0	0

- シャッター開角度が180°でないときは、測定値に対して補正してください。

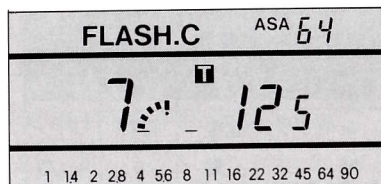
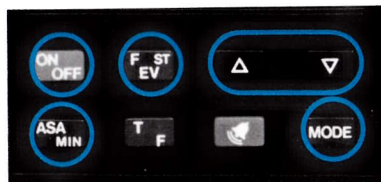
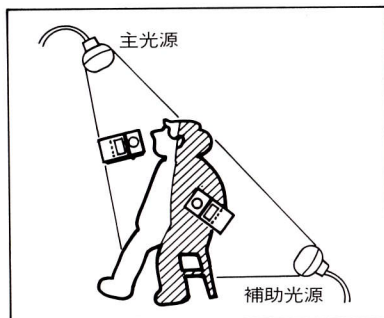
- ・開角度160°：-1/5EV補正します。
- ・開角度220°：+1/3EV補正します。

# コントラストの測定

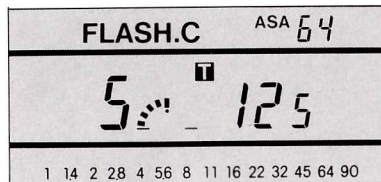
被写体位置で、被写体の明るい部分(主光源)と暗い部分(補助光源)をそれぞれ測定し、照明光源の対照比(コントラスト比)を調整します。

## 〔フラッシュ光の場合の測定方法〕

- ①白色平板と受光部の白点(着脱指標)を合わせ、つぎに白色平板を時計方向に回わして取りつめます。
- ②電源ON・OFFキーを押します。
- ③MODE(モード切換)キーを押して、フラッシュ光の測定モードにします。
- ④F・EV切換キーを押してAV表示にします。
- ⑤ASA(フィルム感度セット)キーを押したまま、▲(アップ)または▼(ダウン)キーを押して、使用フィルムのASA感度に合わせます。
- ⑥▲または▼キーを押してシャッター速度を設定します。
- ⑦露出計を被写体位置で保持し、白色平板の中心を主光源の中心に正しく向けて測定します。
- ⑧同様の操作で補助光源の露出を測定します。この場合、主光源からの影響を受けないように注意し、白色平板の中心を補助光源の中心に正しく向けて測定します。
- ⑨図のように、主光源と補助光源の差が $2$ の場合は、コントラスト比が $4:1$ となります。



主光源の測定値

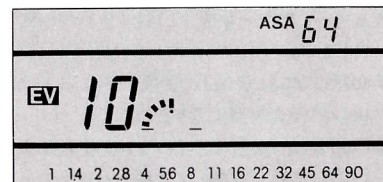
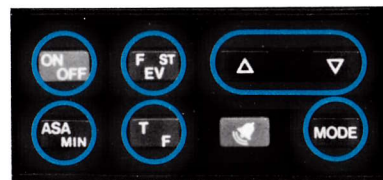


補助光源の測定値

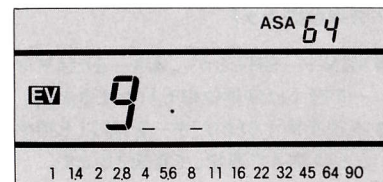
## 〔定常光の場合の測定方法〕

- ①白色平板と受光部の白点(着脱指標)を合わせ、時計方向に回わして取りつめます。
- ②電源ON・OFFキーを押します。
- ③MODE(モード切換)キーを押して、定常光測定モードにします。
- ④T・F切換キーを押して、T優先(表示なし)にします。
- ⑤F・EV切換キーを押して、EV表示にします。
- ⑥ASA(フィルム感度セット)キーを押したまま、▲(アップ)または▼(ダウン)キーを押して、使用フィルムのASA感度に合わせます。
- ⑦露出計を被写体位置で保持し、白色平板の中心を主光源の中心に正しく向けて測定します。
- ⑧同様の操作で補助光源の露出を測定します。この場合、主光源からの影響を受けないように注意し、白色平板の中心を補助光源の中心に正しく向けて測定します。
- ⑨図のように、主光源と補助光源の差が $1\frac{1}{2}$ の場合は、コントラスト比が $3:1$ となります。

露出値の差	コントラスト比
1	2 : 1
$1\frac{1}{2}$	3 : 1
2	4 : 1
3	8 : 1
4	16 : 1
5	32 : 1



主光源の測定値



補助光源の測定値

## 〔注意〕

- 露出の決定は、光球をつけて入射光式で測定してください。

# タイマー

長時間露光を行うときなどは、タイマーモードにすると、1秒から59分50秒までセットできる減算式タイマーとして利用できます。

## 〔タイマーのセット方法〕

- ①電源ON・OFFキーを押します。
- ②MODE(モード切替)キーを押して、タイマーモードにします。
- ③MIN(タイマー分単位セット)キーおよび▲(アップ)または▼(ダウン)キーを押して、希望する時間をセットすることができます。

### ※秒単位のセット

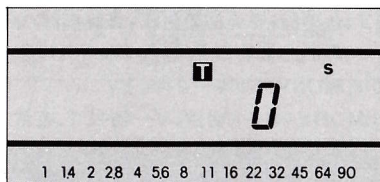
- ▲キー、▼キーを押すと1秒(S)づつ変換します。
- 60秒になると1分(m)に変換し、それ以上は10秒単位の換算になります。
- 連続変換するときは、キーを1秒以上押しと $\frac{1}{3}$ 秒間隔で連続して変換されます。

### ※分単位のセット

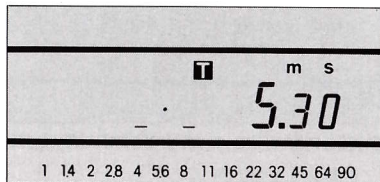
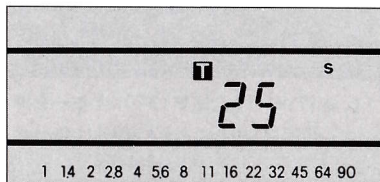
- MINキーを押しながら、▲キーまたは▼キーを押すと1分単位のセットができます。
- 連続変換するときは、キーを1秒以上押しと $\frac{1}{3}$ 秒間隔で連続して変換されます。

## 〔注意〕

- 右図のように分と秒をセットするときは、初めに分単位のセットを行ってください。



タイマーモード



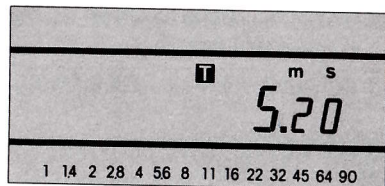
## 〔タイマーのスタート方法〕

ST(タイマースタート・ストップ)キーを押すと、セットされたタイマーがスタートします。

- 秒のみのセットのときは、表示された数値が1秒ごとに減算します。
- 分、または分と秒のときは、1秒ごとにS(秒)表示がフラッシングして10秒単位で減算します。
- 表示が0になったときは、ベルのセットに関係なくピー・ピーと鳴り、再びセットされた数値が表示されます。
- タイマーの使用後、他のモードに変換して再びタイマーモードに戻したときは、前回の設定数値が表示されます。(電池を交換したときは、0になります)
- タイマーモードのとき、測光ボタンを押すと定常光モードに変換されます。

## 〔タイマーの途中でのストップ方法〕

- ST(タイマースタート・ストップ)キーを押してください。再度スタートさせる場合は、STキーを再度押すとその時の表示数値よりスタートします。

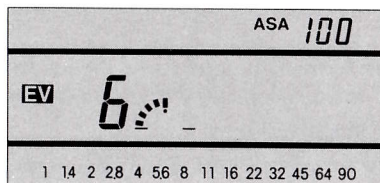
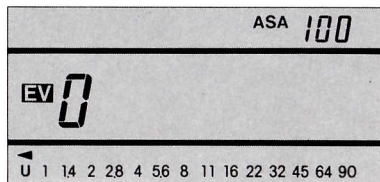


# 定常光の照度(ルクス)の測定

白色平板を使用して、照度計として使用することができます。

## 〔測定方法〕

- ①白色平板と受光部の白点を合わせ、つぎに白色平板を時計方向に回転して取りつけます。
- ②MODE(モード切換)キーを押して、定常光測定モードにします。
- ③T・F切換キーを押して、T優先(表示なし)にします。
- ④F・EV切換キーを押して、EV表示にします。
- ⑤ASA(フィルム感度セット)キーを押したまま、▲(アップ)または▼(ダウン)キーを押してASA100にセットします。
- ⑥受光部を測定面と平行にセットして測光スイッチボタンを押します。



EV 整数部	Lx	EV 小数部	
-1	1.7	0.1	1.071
0	3.4	0.2	1.148
1	6.8	0.3	1.231
2	13.6	0.4	1.319
3	27.2	0.5	1.414
4	54.4	0.6	1.516
5	108.8	0.7	1.625
6	217.6	0.8	1.741
7	435.2	0.9	1.866
8	870.4		
9	1,740.2		
10	3,481.6		
11	6,963.2		
12	13,926.4		
13	27,857.8		
14	55,705.6		
15	111,411.2		
16	222,822.4		
17	445,644.8		
18	891,289.6		

## 〔照度の換算法〕

たとえば図のようにEVの整数部が6、小数部が0.5のときは、右の表から

- 照度 =  $217.6 \times 1.414 \div 307.7$  (Lx) となります。

## 〔注意〕

- より正確な照度を求める場合は、専用の照度計をご使用ください。

# 指示補正の方法

この露出計は当社の基準により標準的な校正がされていますが、受光部底面にある補正ボリュームにより、約±1段(EV)相当の範囲で補正できます。

補正するときは、十分なテスト撮影をしたうえで、ご自分の好みに合わせて補正してください。

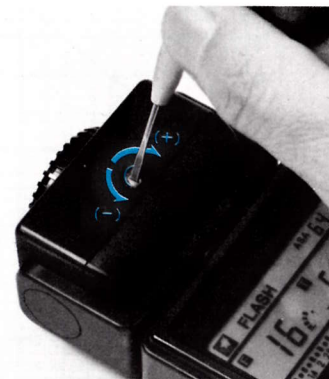
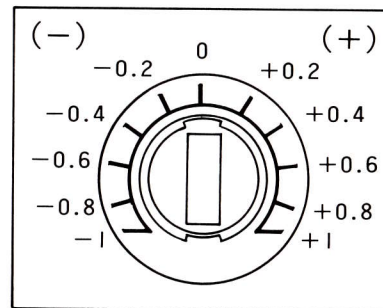
## 〔補正の方法〕

指示補正ボリュームのミゾに⊖ドライバーを正しく入れ、静かに回転して補正します。

- 時計方向に回転すると指示値が大きくなり、撮影した写真は露出がアンダーになります。
- 反時計方向に回転すると指示値が小さくなり、撮影した写真は露出がオーバーになります。

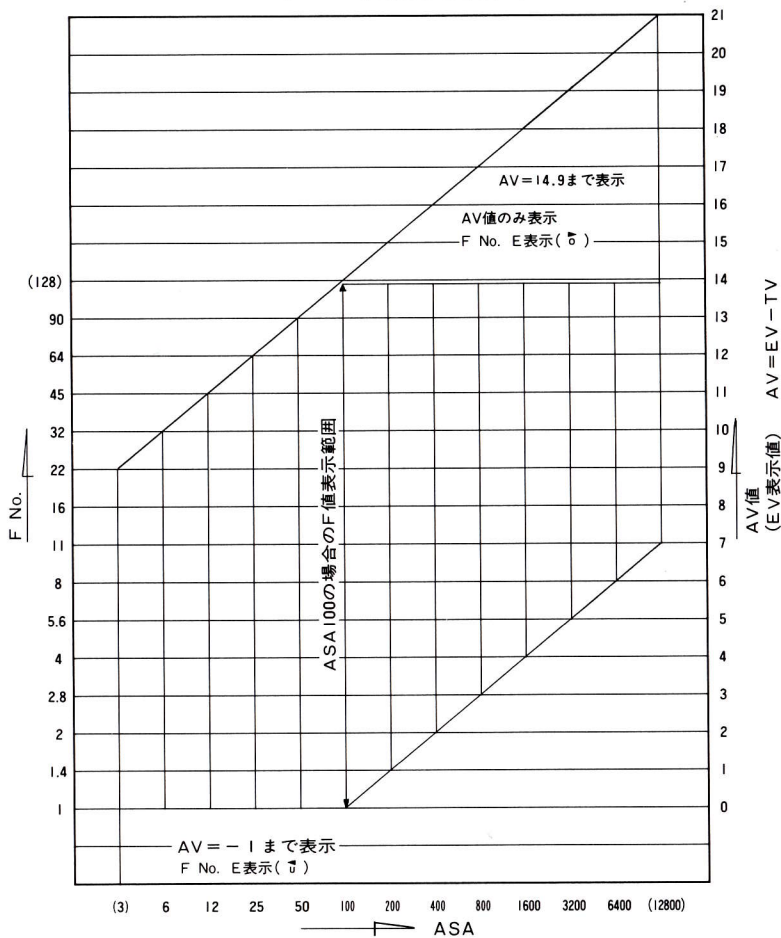
## 〔注意〕

- 補正ボリュームは約±1段(EV)以上は回転できません。
- 補正以外に、このボリュームはさわらないでください。

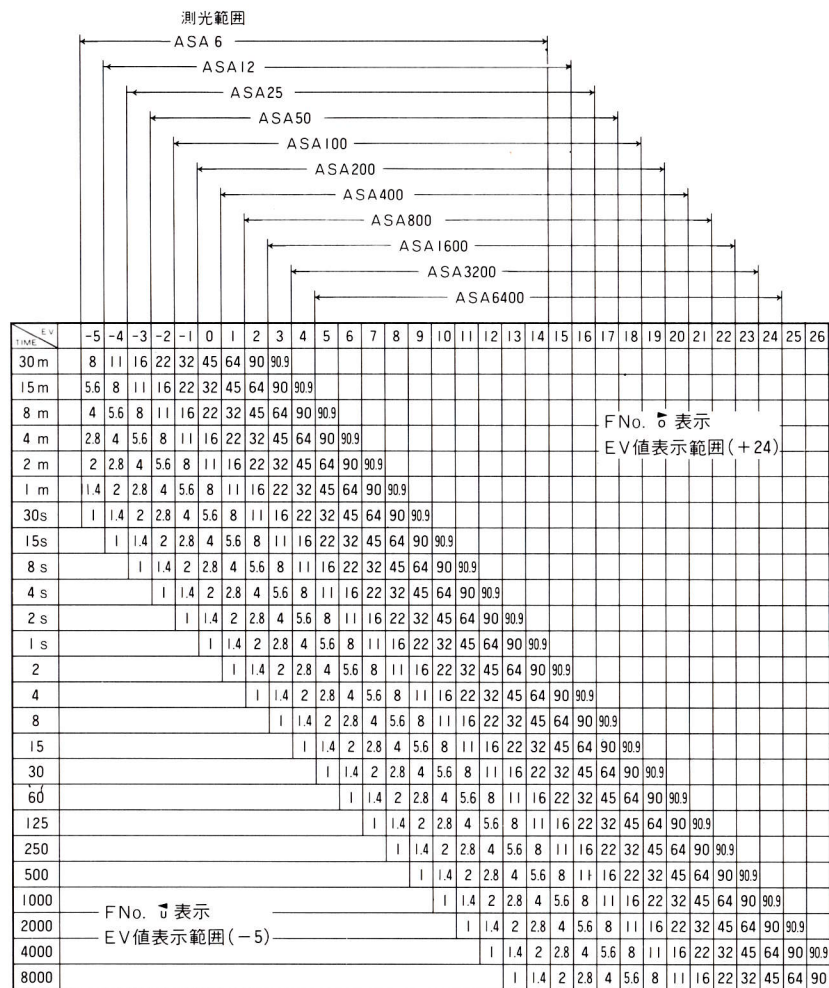


# 測定範囲

## ストロボ光連動範囲



## 定常光連動範囲



# 取扱い上の注意

お買い上げいただいたセコニック・デジプロX-1 L-518は、多くの電子部品で構成された精密電子機器ですので、下記の点にご注意ください。

- a・落下、または急激な衝撃は絶対にさけてください。
- b・極度の高温、多湿な場所には保管しないでください。
- c・光球、白色平板は傷がつかないように、また常に清潔に保つよう  
にしてください。
- d・余分な電池の消もうを避けるため、使用時以外は、できるだけON  
・OFFスイッチをOFFにしてください。
- e・この露出計の使用温度範囲は、0℃～+40℃です。

万一故障がおきましたときには、最寄の営業所、またはサービス・ステーションにお持ちください。

お近くに、営業所またはサービス・ステーションがなく郵送される場合には厚さ3cm以上の衝撃よけパッキングに包んでから、段ボールなどで梱包してください。

# アフターサービスについて

弊社の製品には一定の期間内無料修理をお引受けする保証書が添付されておりますので、記載事項をお確かめのうえ販売店よりお受取りください。

なお保証書の再発行は致しませんので、取扱説明書と併せて大切に保管してください。

## ●無料保証期間などについて

- ①無料保証期間はご購入日より1年間でございます。
- ②保証書にお買い上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。
- ③無料保証期間内でも有料修理となる場合もございますので、保証書の記載事項をお確かめください。
- ④保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

## ●補修用性能部品の保有期間などについて

- ①補修用性能部品は5年間を目安に保有しております。したがって、本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお故障箇所によりましては期間が過ぎても修理可能な場合がありますのでサービスセンターにお問合せください。
- ②修理可能期間はご使用の状態や環境、お手入の状態などによって異なる場合がありますので、現品をご持参のうえお買い上げ店またはサービスセンターにご相談ください。
- ③修理可能期間内でも浸冠水、強度のショック、その他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると考えられますものにつきましては修理不可能となる場合があります。

## ●修理ご依頼時における留意事項

- ①修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的にお申し出ください。ご指定のない場合には、各部点検査はじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご留意ください。
- ②修理をご依頼されたものの中には、単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、⊕ ⊖の逆、定格違いなどについて、よくお確かめください。

## ●転居の場合の手続きについて

- ①転居で販売店にご依頼しにくい場合は、最寄りのサービスセンターにご相談ください。

## ●お問合せ先について

本製品の保証、修理、使い方などのお問合せは、最寄りのサービスセンターをご利用ください。

# 仕様

測定方式 ● 入射光式、反射光式兼用

● フラッシュ光および定常光用多機能デジタル露出計

測定範囲 ● フラッシュ光 = F1.0 ~ F90 + 0.9AV

[ASA100] ● 定常光 = EV - 1 ~ EV18

くり返し精度 ●  $\pm 0.1$ EV以内

受光部 ● 入射光式……光球、白色平板

● 反射光式……光角度板(受光角55度)

● ビューファインダー(受光角10°)別売

● 2方向回転式……左右270°  
上 90°

● 受光素子……シリコン受光ダイオード  
フィルターにより分光特性補正

校正常数 ● C=340 K=12.5

測定モード表示

1. フラッシュ光 ● FLASH.C……コード接続測定モード

● FLASH……コードレス測定モード

● FLASH( $\frac{1}{b}$ )……積算測定モード

2. 定常光 ● モード表示部に表示なし……タイム優先モード

● F ……………絞り優先モード

3. F・EV切換え ● フラッシュ光……表示なし(AV値)0~15

● 定常光……EV表示 -5~24.9

目盛表示(各数値の表示)

● ASA ……6~8000 ( $\frac{1}{3}$ SVステップ)

● TIME……フラッシュ光 1~1/500秒(1TVステップ)  
定常光 30分~1/8000秒(1TVステップ)  
(絞り優先測定の場合は  $\frac{1}{10}$ TVステップ)

● F値……1.0~90+0.9AV ( $\frac{1}{10}$ AVステップ)  
ドット表示 1.0~90まで  $\frac{1}{2}$ AV表示

● EV ……-5~24.9

(定常光の表示 0.1EVステップ)

● AV ……0~25

(ストロボ光測光の表示 0.1AVステップ)  
(表示はF表示がなくなり他表示もなし)

その他の表示 ● 測定範囲アンダー表示

F、EV、T表示部はE(エラー)表示

ドット表示部は  $\cdot$  表示

● 測定範囲オーバー表示

F、EV、T表示部はE(エラー)表示

ドット表示部は  $\cdot$  表示

● バッテリーチェック

b.c表示を行い、ドットで電池容量表示

● ベル(音)連動表示

モード表示部にベルマーク表示

● タイマーセット表示

$\square$ / $g$  表示

使用電池 ● 単三乾電池(1.5V)1本

(JIS : LR6・SUM-3(R6))

その他 ● 指示補正ボリュームつき( $\pm 1$ EV相当連続可変式)

標準付属品 ● 光球、白色平板、光角度板、

大きさ ● 142(154)×64×28mm

( )内寸法はカブセル引伸し時

重さ ● 約200g(電池含まず)

この取扱説明書に記載の仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。



株式  
会社

**TEAC**

東京営業部 〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町3-8 新幹ビル 03 (269)7243  
大阪営業所 〒541 大阪市東区本町2-25 本町ビジネスビル 06 (263)1571  
名古屋営業所 〒460 名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル 052(251)6201  
東京サービスセンター 〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町3-8 新幹ビル 03 (269)7241  
本社 〒177 東京都練馬区大泉学園町7-24-14 03 (978)2330